



【学校教育目標】

Treasure Island

笑顔いっぱい

～気づき、考え、行動する 高島っ子を育てる～

長崎市立高島小中学校 校長 宇土 衛



『主体的・対話的で深い学び』

どこかで聞いたことがありますでしょうか。この『主体的・対話的で深い学び』。実は、今から5年ほど前に出された、日本が目指すべき教育体制です。「自ら興味や関心を持って粘り強く取り組み、児童・生徒同士の協働や教職員・地域の人との対話を通じて自己の考えを広げ、知識を相互に関連づけてより深く理解する学び方」と言えます。（学習活動端末支援 Web システム SKYMENU により）

高島小中学校でも、『主体的・対話的で深い学び』が通常の授業で行われるよう、研修を通して日々授業改善を行っているところです。

実は、8月4日（日）放送のサザエさん「丑の日研究レポート」で、カツオくんが、まさに『主体的・対話的で深い学び』を実践していました。ご覧になられた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

あらすじは…。磯野家で、最近うなぎが高くなったと話題になります。カツオくんが「まさか土用の丑の日にうなぎを食べないなんて言わないよね。」と心配すると、大人たちは「どうかな？」とからかいます。危機感を覚えたカツオくんは、自由研究のテーマを「土用の丑の日とうなぎの関係について」にし、うなぎを食べたい一心でこのテーマに沿って調べ始めるのです。

カツオくんは、まさに『主体的』に学び始めます。自分から進んで「やる気」を持って！（そりゃそうですよね。波平さんから「カツオ次第でうなぎを食べるかどうか決めよう！」と言わ

れたのですから。）まずは、図書館に行き、丑の日についての本を探すのですが、なかなか「これぞ！」という本に出会いません。そこに、かおりちゃん・早川さん・花沢さん登場。このいきさつを話すと、早川さんから土用の丑の提案者と言われている「平賀源内」の情報を得ます。平賀源内の本を借りて読もうとするカツオくんですが、内容が難しくさっぱり頭に入りません。そこで今度はお隣の伊佐坂先生に聞きに行きます。友達・本・ご近所さんと『対話的な学び』が進められます。その中で、平賀源内がどんな人なのか波平さんから追加の質問が！また、うなぎはもちろんだけれども、梅干しやうどん等も夏バテ防止にピッタリとの情報を得てしまいます。ここから、獲得した知識を相互に関連付けてより深く理解する『深い学び』に発展していきます。

はてさて、カツオくんはうなぎをゲットできたのか…？ぜひ、ご家庭で調べてみて下さい。（これも「主体的な学び」？でしょうか。）

先生・先生歓迎会の一コマ



HP も随時更新を行っております。ぜひご覧ください。